

(社)地盤工学会 室内試験規格・基準委員会
「平成19年度 第6回 議事録」

日時	平成20年3月6日(木) 10:30~17:40		場所	地盤工学会 地下A会議室	
委員長	後藤 聡		幹事	豊田 浩史	
幹事	川崎 了		委員(WG1)	杉井 俊夫	
委員(WG1)	細野 高康	×	委員(WG2)	川口 正人	
委員(WG2)	太田 岳洋	×	委員(WG3)	渡部 要一	
委員(WG3)	山本 肇	×	委員(WG4)	仙頭 紀明	×
委員(WG4)	畠山 正則		委員(WG4)	上原 真一	
委員(WG5)	大窪 克己 (横田 聖哉)		委員(WG6)	平井 貴雄	
委員(WG7)	三谷 泰浩	×	委員(WG8)	石川 達也	
委員	小橋 秀俊	×			

:出席 :代理出席 ×:欠席

議事録担当:川崎 了

配布資料:(下線は当日追加資料)

資料番号なし:平成19年度第6回室内試験規格・基準委員会議題書

資料19-6-1:平成19年度第5回室内試験規格・基準委員会議事録

資料19-6-2:室内試験規格・基準委員会名簿

資料19-6-3-1:物理試験WG1報告

資料19-6-3-2(1):土の有効陽イオン交換容量(CEC)の試験方法 公示文

資料19-6-3-2(2):土の有効陽イオン交換容量(CEC)の試験方法 基準案

資料19-6-3-3:透水・圧密 基準改正公示文

資料19-6-3-4(1):JIS書式化作業チェック表(WG4の担当部分)

資料19-6-3-4(2):JGS基準のJIS書式化の簡略報告案WG4

資料19-6-3-4(3):JGS 0520 土の三軸試験の供試体作製・設置方法

資料19-6-3-4(4):JGS 0530 粗粒土の三軸試験の供試体作製・設置方法

資料19-6-3-4(5):JGS 0521 土の非圧密非排水(UU)三軸試験方法

資料19-6-3-4(6):JGS 0522 土の圧密非排水(CU)三軸圧縮試験方法

資料19-6-3-4(7):JGS 0523 土の圧密非排水(CUB)三軸圧縮試験方法

資料19-6-3-4(8):JGS 0524 土の圧密排水(CD)三軸圧縮試験方法

資料19-6-3-4(9):JGS 2521 岩石の一軸圧縮試験方法

資料19-6-3-4(10):JGS 2531 岩石の非圧密非排水(UU)三軸試験方法

資料19-6-3-4(11):JGS 2532 軟岩の圧密非排水(CU)三軸試験方法

資料19-6-3-4(12):JGS 2533 軟岩の圧密非排水(CUB)三軸試験方法

資料19-6-3-4(13):JGS 2534 岩石の圧密排水(CD)三軸試験方法

資料19-6-3-5(1):安定化WG試験WG5報告

資料19-6-3-5(2):JIS規格の「適用範囲」における粒径の記述の差異

資料 19-6-3-7(1): 岩盤不連続面の一面せん断試験方法 公示結果報告
資料 19-6-3-7(2): 岩盤不連続面の一面せん断試験方法 最終版
資料 19-6-3-7(3): 岩盤不連続面の一面せん断試験方法の英訳 最終版
資料 19-6-4-4(1): 目次案(第8編)
資料 19-6-4-4(2): WG4 岩石試験 G 議事録(平成 20 年 2 月 20 日開催)
資料 19-6-4-5: WG5 議事録(平成 20 年 2 月 22 日開催)
資料 19-6-4-6: WG6 議事録(平成 20 年 2 月 1 日開催)
資料 19-6-5: 赤本改訂版の名称に関するアンケート結果
資料 19-6-6: ISO/TS 規格の定期見直しに関する意見
資料 19-6-7: 委員会活動レビューシート
資料 19-6-8: 室内試験規格基準委員会予算執行状況表

議 題:

【審議事項】

(1) 委員の交代

WG5 に関する下記の委員交代について審議した結果、これを承認した。3 月 13 日(木)に開催される基準部会に上申する。

退任: 大窪克己 委員(高速道路総合技術研究所 道路研究部 土工研究室 室長)

新任: 横田聖哉 氏(高速道路総合技術研究所 道路研究部 土工研究室 室長役)

理由: 業務分担の見直しによる

(2) 委員の追加

下記の委員の追加について審議した結果、これを了承した。3 月 13 日(木)に開催される基準部会に上申する。

新任: 森田 宏 氏(国土交通省 大臣官房 技術調査課 課長補佐)

理由: JIS の見直し・改正に関する手続き・審議のため

(3) 基準の見直し・改正について

WG1:

前回、当委員会で審議した以外の基準の見直し・改正について説明された。全体に関係する修正意見は、以下のとおりである。

- ・基準名の英訳は、最初の 1 文字以外は全部小文字表記とする。
- ・「1 適用範囲」の「注記」には「本基準と部分的に異なる方法を用いた場合には、その内容を報告事項に明記しなければならない。」などの記述をせず、「報告」で記述する。
- ・「2 引用規格及び基準」では、引用する規格や基準の数が 1 つの場合は「この」、複数の場合は「これら」の表現を使用する。
- ・「計算」の表現としては「算定する」を使用せず、「算出する」を用いる。
- ・「表 1(a)」および「表 1(b)」の内容に関連する WG は、見直しの必要性の有無および

見直した場合にはその結果を3月11日(火)までに杉井委員へ回答する。

- ・JGS 0101の基準名の中にある「土質試験」の表現について議論したが、変更せずに現状のままとする。
- ・JGS 0131の「10.2 沈降分析結果に対する粒度の計算」の「細分箇条」の表現を削除する。
- ・「注記」の中で引用する規格または基準は、「2 引用規格及び基準」のところで番号および名称について記載する。
- ・解説の執筆対象については、現在の赤本と同じ、すなわち、規格と基準の両方を対象にして執筆する。
- ・規格・基準の改正・見直しの履歴の部分に関する書き方については、最初は各WGで自由に執筆してもらった後に改めて議論することになった。
- ・引用文献については、すべて転載許可願を出す。出版社に対する転載許可願については、原稿の引用文献のリストを作成して地盤工学会がまとめて対応する。
- ・図、表、写真、文章などの引用に伴う転載許可願については、組織(出版社および学会など)に関しては地盤工学会が一括して許可を取り、個人(論文や報告など)に関しては実際に原稿を執筆した著者が個別に許可を取ることにする。なお、その状況の管理は、各WGで責任を持って実施する。

一方、WG1関係のみに対する修正意見としては、以下のようなものである。

- ・JGS 0171の「7.1 準備」の赤字部分を再検討する。
- ・JGS 0171およびJGS 0172の「4.1 凍上試験機」の「注記2」の「アイスレンズ」は、「3 用語及び定義」のところに書くべきとの意見があり、持ち帰って検討する。

WG2:

公示文に関しては、以下のような修正意見が出された。

- ・「まえがき」のタイトルの最初に「1.」を加筆する。
- ・略称「CEC」の正式な英語表記「Cation Exchange Capacity」を本文中に加筆する。
- ・「表 1」のタイトル中の「化学試験」は「化学特性」にする。また、メンバーはアイウエオ順に記載する。
- ・「3. CEC 測定方法の基準化の必要性」の最後の2行は、例えば「化学特性WGにおいて原案を作成し、室内試験規格・基準委員会および基準部会の審議を経て基準案を提案するに至った。」などに修正する。
- ・「表 2」および本文中におけるサブWGの表現は削除する。
- ・「4. 基準案の概要」の「(1)適用範囲」の「JIS 1201」は「JGS 0101」に修正する。
一方、基準案に関しては、以下のような修正意見があった。
- ・「序文」の「この規格は」を「この基準は」に修正する。
- ・「1 適用範囲」の「注記2」の表現「~の妨害を受ける。」について再検討する。また、「JIS 1201」は「JGS 0101」に修正する。
- ・「3 用語及び定義」は節の見出しではないため、1行ずつ改行する。また、定義する用語について全体的に見直しを行う。
- ・「付表1」は本文の「2. 引用規格及び基準」のところに書く。

- ・「4.2 粒度調整」の「2mm 目のふるい」は「2mm ふるい」に修正する。
 - ・「5.1 洗浄」の「10」の「注記」の「試験記録」は「報告」に修正する。
- なお、本基準案は修正の後、3月13日（木）に開催される基準部会に上申する。

WG3：

JISの公示結果を待って、それらをJGS基準とする計画である。なお、「2.3」の「(6)」の2文字「報告」は削除する。

WG4：

基準の新JIS書式化に関する作業が一通り終わり、それらに対する再見直しが現在までに終了している10基準に関する見直し・改正案が説明された。全体に関する修正意見は、以下のとおりである。

- ・供試体の側面および端面の両方で「成形」と表記していたところを、今回は側面を「成形」、端面を「整形」と表記して統一した。なお、現在公示中のJIS(一軸圧縮試験や圧密試験などでは「成型」で統一している。表記法委員会の幹事である鈴木氏に問い合わせることになった。(担当者：川崎幹事)
- ・JIS Z 8301:2005の「5.2.5 細別」に記載があるように、細別には「次による」のような文を前置きする。すなわち、「a), b), c)・・・」がタイトルの直後に続かないようにする。

一方、岩の三軸試験関係については基準ごとに解説が書かれているので、1つにまとめる作業を進め、3月末を目標に解説の第一次原稿を完成させる予定であるとの報告があった。

WG5：

全体に関する修正意見は、以下のとおりである。なお、解説は4月中に完成予定との報告があった。

- ・JISの規格案の「適用範囲」における粒径の記述の差異については、公示後の会員からの意見として検討する材料とする。
- ・赤本の本冊と付録に同じような内容の文書があり、付録の方の内容を省略できないかとの意見が出たが、今回の改訂時においても省略しないことになった。
- ・「呼び寸法」の表記は使わないことにする。

一方、WG5関係のみに対する修正意見としては、以下のようである。

- ・「2 引用規格・基準」は「2 引用規格及び基準」に修正する。
- ・JGS 0122 電子レンジを用いた土の含水比試験方法は削除する。

WG6：

改訂するJGS基準の5つは、現在公示中である。解説については、3月中に第一次原稿を出すことになっている。2007年10月にJISとして新規制定された規格が見つかり、この規格も赤本改訂版に加えることになった。なお、規格のみであることから、「まえがき」および「解説」を追加して執筆する必要がある。

WG7：

公示した基準案に対する会員からの意見対応が終了し、公示結果報告を作成した。地盤工学会の予算による基準の英文校正を実施した。公示結果報告、基準および基準

の英訳については、3/13(木)に開催される基準部会に上申する。解説は、旧岩の試験調査・規格・基準検討委員会による査読およびWG7による修正の後、3月末までに完成させる予定である。当委員会における解説案の審議は4月を予定している。

一方、WG7は今年度末で活動の終了期限となるが、解説が完成していないことから、活動の延長やWG4への委員追加などによる来年度の活動について確認することになった。(担当者：川崎幹事)

WG8：

解説を現在執筆中であり、80%程度 of 原稿ができている。当初の計画通り、今月末には第一次原稿が完成する予定である。

(4) その他

- ・基準の見直し・改正に関しては、3月13日(木)開催の基準部会に上申しないことにした。すなわち、4月に開催される基準部会において全部1度に上申する。よって、各WGは次回の室内試験規格・基準委員会までに基準の見直し・改正案の公示文案を作成すると同時に、基準の見直し・改正に関する作業をすべて完了しておく必要がある。
- ・データシートに関して議論した結果、土に関しては現在のデータシートを修正して残すこと、岩に関しては作成しないことになった。なお、データシートは各WGで作成する。今回の改訂では、WG3が1つ、WG6が5つの合計6つの新規データシートが作成されることになる。
- ・WG1の古河グループリーダーからの要請により、各WGは解説の目次(案)を3月11日(火)までに地盤工学会の日向氏まで送付することになった。事務局で1つの目次(案)にした後、各WGまで送付していただく。
- ・平成20年度から新規に始まるWGのメンバー構成を提出してもらう必要があり、後藤委員長が山下氏(北見工業大学)および安川氏(立命館大学)に連絡することになった。(担当者：後藤委員長)なお、これらのWGの番号については、事務局に問い合わせることになった。

[報告事項]

(1) 解説の執筆状況の報告

各WGより、解説の第一次原稿の執筆期限である今月末に向けて執筆活動が概ね順調に進んでいるとの報告がなされた。なお、解説原稿の具体的な査読方法(工程、査読者など)については、次回の4月に開催予定の当委員会において議論することになった。

(2) 赤本改訂版の名称について

川崎幹事より、旧岩の試験調査・規格・基準検討委員会の関係者に対して行われた赤本改訂版の名称に関するアンケート調査の結果について報告された。その結果、原案の「地盤材料試験の方法と解説」に対して賛成する意見が大部分であった。当委員会としては「地盤材料試験の方法と解説」を第一候補とし、3/13(木)に開催される基準部会に

上申する。

一方、「土質試験 基本と手引き」の名称については、安川グループリーダーに検討を依頼することになった。(担当者：後藤委員長)

(3) ISO/TS 規格の定期見直しに関する意見

豊田幹事より、ISO/TS 規格と日本の規格・基準との間に問題となる差異がないか確認した後、ISO 国内委員会まで意見として回答した結果について報告された。関係する WG は WG1、WG3、WG4 であり、意見の中でも特に下記に関しては強く要望する必要があることから、ISO 国内委員会まで再度連絡することになった。(担当者：豊田幹事)

- ・粒度試験：ふるい目の違い
- ・一軸圧縮試験：断面積 1000mm² 以上の供試体に規定されると、JIS で許容している直径 3.5cm の供試体(断面積 962cm²)が使用できなくなる。

(4) 委員会活動レビューシートについて

豊田幹事より、当委員会の活動目的や活動内容などについて記入したレビューシートが既に提出済みであることが報告された。

(5) 今年度予算の執行状況

予算の執行状況について報告された。一般会計については全部使い切り、現在は刊行事業特別会計から支出している。

(6) その他

次回の室内試験規格・基準委員会は、平成 20 年 4 月 18 日(金) 14:00~17:00、平成 20 年 4 月 11 日(金) 10:30~13:00 の順に開催候補日時とし、場所は地盤工学会で開催する。開催日時の調整は両幹事が行い、4 月の基準部会の開催日にあわせて決定する。次回の委員会における主な議題は、残りの基準の見直し・改正、解説の目次、解説の査読方法、新規 WG メンバー構成などの審議である。

以上